



中之島だより

令和3年11月号

和歌山市立中之島小学校



保護者・地域の皆様に支えられ

【校長 太田 謙二】

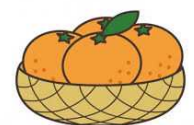
朝晩は、めっきり寒くなり、秋の深まりを感じる季節となりました。今年も気が付けば、残りあと2か月です。

日頃から学校運営をしていく中で、学校だけではできないことがいっぱいあると常を感じています。登校時は、見守り隊の皆様に見守っていただいているおかげで、子供たちは無事に学校へ登校することができています。暑い日も寒い日も子供たちのことを思ってくださっていることを大変ありがたく、でも、ご厚意に甘え、「これを当たり前だと思ってはいけないな。」と思っています。

また、民生委員の皆様が、下校時の見守りをしていただいたり、卒業式の時、育てた花でいっぱいになるように、花を育てる活動をしていただいたり、中之島の歴史や地域の良さを教えてもらう活動、日本の伝統文化に触れる茶道教室など、もうすでに行っていたりしている活動や、これから取り組む活動など、子供の学校生活を豊かにするために、ご尽力いただいています。

それ以外にも、長年にわたり学校の玄関を入ったところに、定期的に生け花を生けていただいています。学校に来た人が玄関で目にされて、癒されているかと思えます。大変ありがたいことです。

先月の23日には、保護者の皆様のご協力を得て「なかのしまふれあいまつり」を開催していただきました。子供たちは、この日をととても待ち望んでいました。保護者の皆様が、事前の打ち合わせや準備、当日の運営等していただいたおかげで、子供たちはとても楽しい時間を過ごすことができましたし、子供たちの喜ぶ姿を見て、保護者の皆様も「大変だったけどやってよかった」と思われたことだと思えます。



新型コロナウイルス感染症については、全国的にかなり感染状況は収まって来ていますが、第6波も懸念され、まだまだ気を許せない状況だと思っています。引き続き感染症対策を徹底し、教育活動を進めていきたいと考えています。

「スポーツの秋」「芸術の秋」「読書の秋」など、季節的に何事にも落ち着いて取り組むことができるいい時期。子供たちの学びがより深まり、楽しく学校生活を送ることができるよう、保護者の皆様、地域の皆様、子供たちのために、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。